

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772500639
法人名	特定非営利活動法人リライフ
事業所名	グループホームむつみ庵
訪問調査日	平成 20年 12月 26日
評価確定日	平成 21年 1月 23日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2772500639
法人名	特定非営利活動法人リライフ
事業所名	グループホームむつみ庵
所在地	大阪府池田市古江町4番地12 (電話) 072-751-4763

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年12月26日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(20年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	3人, 非常勤 12人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(3年以上)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(12月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 多田内科・赤澤歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは阪急池田駅北約4kmのところ日本4大植木産地の中に位置している。運営者や管理者の熱い思いがある造りをそのまま残した古民家改修型で、また元植木屋の広大な素晴らしい庭園をもつグループホームである。そこには寺の住職を兼ねる代表理事、管理者及び職員は地域住民で構成され、地域で作られた野菜をやりとりするなど開設当初から地域ネットを生かした地域密着型サービスを実行している。またスローガンである「自分の生活や人生を見直すことへのサポート」のもと、ゆったりとした大家族を求め職員同士が心のこもった支援を実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題①地域密着型サービスとしての理念はもともと地域に根ざした事業所であるが制度の変化に基づいた理念の作り直しは、地域の関係強化やこの町で暮らし続けられる場所づくりが追加され改善された。②運営推進会議の年2回の頻度は変わらず次年度にもちこした。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関係項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は一連の評価のねらいを理解している。管理者は職員と会話しながら、自己評価に取り組み、そのなかから一步一步改善に向けた努力が行なわれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度は5月と11月の2回開催され、家族、自治会、老人会、市の担当課長が出席されている。議事録には、家族の意見が記録され改善にむけた対応が行なわれている。ただし地域包括支援センター等の協力を得てホームの常識にとらわれず外部の風を積極的に取り込む努力をされ、話題を多くした会議の頻度を高めることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には率直な意見を聴くように努力され、その意見は月1回のミーティングで議論されている。年1回の家族会や運営推進会議でも出来るだけ双方向な意見が出るようなシステムが作られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭り、秋祭り、餅つき大会等に参加し、また中学生のボランティアを受ける交流もされている。地域住民とのかかわりが深い事業所が特徴で、地域の一带にひろがる植木屋や地で取れた新鮮な野菜のやりとりなどの交流がされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの“自分の生活や人生を見直すことへのサポート”に加え、地域との強化やこの町で暮らし続けられる支援を謳った事業独自の理念“地域の豊かな関係性を賦活させるお手伝いをしよう”に作り直している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念を掲示し職員と管理者は、日々話し合い、振り返り理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや餅つき大会など地域の行事に参加し、また毎日の散歩や買い物時に地域住民との会話をしている。ボランティアとしての大学生や中学生、一般の方たちとの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価のねらいや活用方法を事業所として理解している。一連の評価を月一回の全職員のミーティングで議論し改善への努力を進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年、5月と11月に開催され、家族との双方向な議論も記録され、改善の会話もされている。ただ年2回の頻度の改善が望まれる。	○	運営推進会議でかかえている問題を率直に話し合い、出席者から意見を聴くことが事業所にとって大きな味方になることを信じて回数を増やすことが望まれる。また常識にとらわれないメンバーへの呼びかけも望まれる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	池田市の出先機関が近くにあるので頻りに交流している。また市の窓口である福祉部高齢介護課から色々な情報を収集している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の近況を丁寧に報告している。また電話や郵便でも近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、相談、苦情窓口は重要事項説明書に開示している。家族との面会時も率直に意見を聴くよう努力し、月のミーティングで議論している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がほとんどなく、近くの住民である職員と利用者は一緒の大家族の一員である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に介護計画作成者が外部研修を受講した中身を事業所内で発表している。ただ事業所として年間計画にもとづいた研修が実行されていない。	○	職員育成の重要性を認識し、各自のレベルに応じた事業所としての研修の場が計画的に確保されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田市の担当が参加するグループホーム8事業所の連絡会が出来、持ちまわりで事業所を見学する。管理者と計画担当者が積極的に参加し、学びと交流が実行されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	東京センター方式をとり入れた利用者の情報の確保とくり返しの面談で職員との馴染みを図り、体験もしながらサービス開始されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の里家の雰囲気の中かで職員は大家族と考え、一緒に過ごしたり、学んだり、広い庭を見守りながら歩いたり悲喜こもごも共に支えあう関係が実行されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を丁寧に把握し、毎月のミーティングで職員同士で意見を出し合い確認し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	看護師の資格をもつ介護計画担当者が日々新鮮な目で利用者や接し、そして家族を含めた関係者と相談しながら毎月見直しが図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員による日々の記録を共有しながら毎月1回は状況の変化を相談し、定期的に介護計画の見直しが図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	早期退院の支援や通院の送迎など柔軟に支援している。外泊も支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医は急変時でもすぐに対応され信頼が厚く家族の了解のもとで毎月の往診がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として重度化した場合における対応の指針が明示されている。そして終末期に向けての家族、職員、かかりつけ医とくり返しの話し合いが共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は大家族の一員という認識から、利用者一人ひとりの尊厳を大切に日々プライバシーの確保について話し合いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、日向ぼっこしたい人、土いじりしたい人それぞれに合わせた支援が実行されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員同士でよく話し合い、食材を買いに行き、手作りをしている。時々利用者に食べたいものを聴き変更することもある。利用者は毎日片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、週2回、夏季3回とシャワーをしてる。普通の家の風呂場で心のこもった支援と柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭で菜園をし、土いじりの好きな方、家事の好きな方、囲碁の好きな方などそれぞれの生きがいの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日散歩を実行している。時々買い物など車の外出も実行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常玄関は鍵をかけず、広い庭の散策は自由であるが後ろにそっと職員の見守りがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防の協力で消防訓練やAEDの講習会をし、もう1回は事業所の避難訓練を行なっている。地域連絡網で話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にチェックしてもらったメニューで一人ひとりに応じたバランスの取れた食事と水分が確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	“里の家”風な玄関、食堂、居間、畳廊下、広い縁など利用者にとって自然とゆったりした気持ちになり、居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の日本風を残した居室に改修し、一人ひとりに応じた居室作りの支援と、臭いがこもらないよう空気の入替えに気をつけている。		